

令和 7 年度 市長記者会見 発言要旨

令和 7 年 5 月 20 日(火)開催分

< 開催時間 > 14:00~14:30

< 会 場 > 庁議室(市役所本館3階)

< 会見案件 > 市長ビジョンロードマップ R6 年度成果報告書および R7 年度改訂版について
第九次福井市総合計画策定の取組について

< 出 席 者 > 市長、総務部長、市長公室長

< 質疑応答 >

【記者】

ロードマップの昨年度の取り組みについてお伺いします。市長が特に思い入れを持っていた、あるいは重点的に進めたいと思っていた事業があれば教えてください。

【市長】

正直に言えば、どの事業にも思い入れがあります。事業の数が多いので、今日ご紹介した 3 つを代表的なものと考えていただければと思います。新しい事業の展開には私自身も期待していますし、紹介したものに特に力を入れていると考えていただいて差し支えありません。

【記者】

市長ビジョンロードマップについてですが、KPI(数値目標)が設定されていないため、進捗が見えづらいように思います。昨年度の部局マネジメント報告に代わるものと考え、比較や評価がしにくいのではないのでしょうか。

【市長】

そのご指摘は理解できます。ただ、ビジョンは多岐にわたっており、すべてに数値目標を設けるのは難しいと考えています。年度ごとの実施計画を示すことで、市としての動きを把握していただければと思います。数値を設定してしまうと、あたかもそれが絶対的なものに見えてしまう恐れもありますので、あえて「数値化に固執しない」という判断をしました。年度ごとの成果報告には、実施した内容や目指す方向を明確に書いていますので、そちらを通じてご理解いただければと考えています。

【記者】

予定していた 139 事業はすべて実施されたとのことですが、その中で目標に届かなかったものや、課題が見えた事業はありましたか。それとも全体的に 100 点に近い成果だったという感触でしょうか。

【市長】

100 点満点というのは難しいですが、私は市民の満足度が最も大事だと考えています。私としては、やるべきことはきちんと実行してきたつもりです。ただ、最終的な評価は市民の皆さんがどう感じているかにかかっています。具体的には、「楽しい」「安心」「元気」といった実感を持っていただけるかがゴールであり、それが成果だと考えています。自分が満足しているかどうかよりも、市民の感じ方が重要だと考えています。

【記者】

では、その市民の満足度はどのように評価されるのでしょうか。

【市長】

評価は非常に難しいです。ただ、私は現時点で計画通りに進んでいる、順調に推移していると考えています。事業ごとに見ると、市民から喜びの声が届いているものもあり、手応えを感じています。ただし、最終的な評価を下すにはもう少し時間が必要かもしれません。今のところは、客観的に見ても順調だといえると思います。